

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2008年4月30日

87号

NP0 法人「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

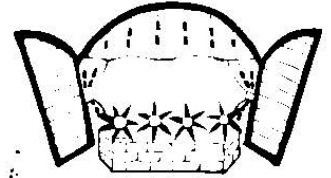
活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562- 5991

—— 春！一年の計が動き出すとき——

皆と共に自分たちも頑張ろう！



新年度の幕開けです。寒すぎもせず、暑すぎもせず人をのどかにさせるよい季節ですが、幼稚園に入園するおちびさんから、社会へ巣立つ青年たちまで、少し緊張しつつ胸をはる、さわやかな出発のときでもあります。

* * *

いろいろなところで、前年度のことが決算総括され、新しい活動計画がうごきだします。

私たちを取り巻く福祉の世界でも、大小の組織が、公平で暮らしやすい社会、安全で豊かな生活を目指して、たくさんの“会議”を繰り返しています。そんななかで、いろいろな集まりと関わらせていただくと、網の目のように張りめぐらした福祉への意識と努力の中でも、今すぐどうにかしたい私たちの現実との微妙な距離を感じます。

そして「まだ、日本の福祉はまだまだ成熟しておらず、今しばらくは、自分たちで頑張らねばならない」とあらためて思うのです。ただ、このことは大切なことだと思っています。

社会全体の中では、ほんの一握りに過ぎない障害者、特に重度の人たちにとっては「全体がよくなってくれば...」では遅すぎるのです。そのことは、長い歩みの中で私たちが体験してきた事でした。そして、この一握りの人たちの頑張りが、バリアフリーを進め、結果として全ての人たちに動きやすい社会へ向けての変化を作ってきたのも事実です。

また、私たちが言うように「誰もが、その個性を尊重され、個性に合わせて」暮らせるような社会が当たり前のことになれば、誰もが生き生きと、無理をせず、自然に生きられるはずです。

* * *

とはいえ自分たちの周囲だけをよくしようとしても、社会とのかかわりの中で生きている以上ほんとはよくはならない。そこに、私たちが、周囲の様々な人たちとの連携の中で、活動していく必要があるのだと思います。また、根気よく市民の皆さんに、呼びかけていくことにも、一握りの人たちを支援する私たちの役割があるのだと思うのですが、いかがでしょうか。

ご入会 ご継続 ありがとうございます

[敬称略]

《顧問会員》

薄井 芳夫	下嶋 悦子	井上 禮子	若木 信子	門脇トモ子
曾根 邦彦	濱 あい子	森 芳春	日浦美智江	

《会員》

大原 日恵	大原 友子	富岡 久子	山田 きち	阿部八重子
古田 節子	西脇 久夫	竹生 真喜子		

《賛助会員》

宇賀持てる子	川島 仁子	吉田 博子	山本 邦子	土屋 幸子
矢沢 儀子	佐藤 幸市	佐藤由美子	不動 寿江	鈴木喜三枝
山田 秀夫	山田 玉枝	明田川節子	笹瀬スマ子	藤井みさ子
平等 直	平等 志成	阿部 太二	下野 正夫	下野 芳子
下野 一夫	下野 節子	岩崎 信行	岩崎ふさ子	萬治 進
萬治 敏子	楠戸 滋夫	楠戸 エミ	黒田 道子	小宮山裕子
鎌田みね子	福田 徹	小堀 正巳	小堀 正章	寺田 偕子
寺田 美奈	箴島 義弘	山田 武	高安 克典	高安 晴美
高安 恒晴	西脇 五月	西脇美登里	西富 房江	佐藤 栄吉
前田美津江	北川 道子	加藤 峰康	白川 淳子	下野 一夫
鈴木 富子	松山伊智子	安田 章子	高橋 宏禎	高橋 えい
石井 正夫	山田千枝子	渡辺 隆利	渡辺 洋一	渡辺アツ子
鈴木 恒夫	中山 欽一	栗原 紀子	大石富美子	松永 重年
高島 傑	戸川 英丈	戸川 清美	佐藤 政子	三上 文子

《賛助会員団体》

大原マネジメント研究所

ゴールドケアサービス

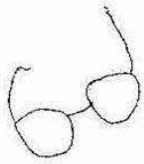
(20年4月29現在)

— おたより —

ご無沙汰しております。「たわわ」にてメンバーの皆さんの明るく楽しそうな暮らしぶり、そして多くの方々の支えによって、しっかりと、着実に地域に根を張っている事を知ることができ、大変嬉しく思っています。遠方からではありますが、いつも応援しております。皆様どうぞお元気で。

守山市 北川 道子





めがねの声

■ “お別れ”は不安と背中合わせなの・・・

いろいろあって 私の気持ちが後ろ向きになっていたとき、大塚先生に相談に行きました。いつも のせていただいている「めがねの声」をもうやめになりたいと聞いてみました。先生にすごくしかられました。

先生は「ますます あたまが駄目になるから 辞めたらだめだよ」といいました。

私は 言葉がでない言語の障害があるので 文が正確に書けないし、本や長い文を読む事が とてもにがてです。仮名や少しは漢字も 言葉もわかっているのですが ふしぎに 文章になると読みにくいのです。そして「て、に、を、は」が 上手に使えなかったり 言葉の文字の並びが ごちゃごちゃになったりすることがあります。

でも 読んでもらって 耳で聴けばよくわかるし、このごろは いつも使い慣れた文は書けるようになりました。

先生は「文を書くと 皆よくわかってくれるよ。友子は書いてゆくことが大切なんじゃないかな」といつも言います。私もそう思います。でも、グループホームに入るときそのところが 一番心配でした。

母は、『長い時間で見ると、だんだん上手になっている。ファックスの文もよく伝わるし、メールも解るので大丈夫』と言いますが、これから先 どこまで一人で できるようになるのか心配になります。

* * *

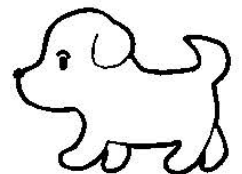
私の言葉を わかってくれる人が「さよなら」したり、代わったりすると、わかってもらうまで また『糸のようにこんがらがって』時間がかかると思うと、心の中で泣きたいぐらいです。親しい人とのお別れは、ただ寂しいだけでなく、新しい人との出会いで すぐうまく伝わるかしら、という不安も背中合わせの 悲しいお別れなのです。

* * *

時々、私の語録を作りたいね と言います。たとえば『恥ずかしく』と書きたいのに『すわしく』と書いたり 『がっかり』が下書きでは『あんかん』などと書いてあったり。これでは 文字盤の会話もたいへんですね。

でも 時間をかけて ほんとの意味が通じたときは、とてもうれしいし また大笑いです。

もう少し、がんばる事にしました。



大原友子

よつばホーム

4月を迎えいよいよ新年度のスタートです。気持ちを新たに入居者・職員一同頑張っていきたいと思います。

第2よつばホームは先月3歳になりました☆そして4月は勢津子さんと次郎さんが誕生日を迎えます。今回はよつばホームでの誕生日会の様子をお話します。

次郎さんは誕生日のずっと前から食べたいケーキを職員にリクエストしていました♪



誕生日当日、しもだから帰宅後職員と一緒にケーキを買いに行きます。本人のリクエスト通り『ペコちゃんのチョコレートケーキ』です♪と思いきや、店内のショーケースを見て気持ちが揺らぎます^^; さすがケーキ屋さん！どれも美味しそうにディスプレイされています^^ 長考した結果、イチゴの生クリームに^^;



勢津子さんはチョコレートケーキをリクエストしました。ろうそくに火をつけ、音楽担当の次郎さんにキーボードで『ハッピーバースデー』をかけてもらいます♪

そして曲が流れてみんなで歌おうと思いきや「き～よし～、こ～のよる～♪」って^^;

ひとボケあって、さあ仕切りのおし^^ 「ハッピーバースデー♪ トゥユー♪」

2人ともとても嬉しそうでした☆

第2よつばホーム

春は別れの季節でもありますが、出会いの季節でもあります。この春をもって永く活躍された職員が2人退職しました。

この4月で第2よつばホームは4年目を迎えます。新年度をもって新しい職員も入りしました。4月から職員になりました『^{すなだまきし}砂田将司』さんです。ここで紹介させていただきます☆「以前から障害を持っている人たちに関わる仕事がしたく地元岐阜県から上京し、横浜にある福祉の専門学校に通い始め、昨年5月からよつばホームにアルバイトとしてお世話になっていました。やはり学校で勉強したことと現場ではギャップを感じますが、皆さんにとってグループホームは生活の場ですので、皆さんが安定した生活が送れるように頑張っています。

4月からは社会人として、そして職員として覚えることも多く、戸惑うことも多いと思いますが、気持ちを一心に頑張っていきますので今後ともよろしくお願ひします。」

